

日時 2009年6月26日(金) 14時00分 至16時10分
場所 ウェルシティ東京(東京厚生年金会館) 錦の間(新宿区新宿5-3-1)

出席者

委員:高階(会長)、垣内(副会長)、岡田、樽松、大和、沼田、松本、小山、近藤、園江、酒井各委員(小口委員、舟橋委員については欠席)
専門部会員:小川 専門部会員
オブザーバ:佐野 新宿文化センター館長
事務局等:山田文化観光国際課長、原文化観光国際主査、宮本主任主事、北見主任主事、小泉主事、原(健)主事

資料

【懇談会資料】

- ・ 資料1:新宿区文化芸術の振興に関する懇談会(第6回)議事(概要)
- ・ 資料1:新宿区文化芸術の振興に関する懇談会(第6回)議事(要旨)
- ・ 資料2-1:文化芸術振興の取組みの方向性(『新宿からの文化を創造する・発信する』『新宿のまちに人を惹きつける』『民の力で作られたまちを守る』『新宿力のふたを開ける(顕在化する)』『多様な人と人をつなげる』)の取りまとめ
- ・ 資料2-2:文化芸術振興の取組みの方向性(『新宿からの文化を創造する・発信する』『新宿のまちに人を惹きつける』『民の力で作られたまちを守る』『新宿力のふたを開ける(顕在化する)』『多様な人と人をつなげる』)の取りまとめ
- ・ 資料3:これまでの議論を踏まえての新宿文化センターのあり方について

【参考資料】

- ・ 新宿文化センターリーフレット・利用料金表・利用のご案内
- ・ -1、 -2 新宿文化新宿文化センター5年の歩み、10年の歩み(抜粋)
- ・ -1、 -2 財団法人新宿文化・国際交流財団提出バックデータ
- ・ 23区の公立文化施設における指定管理者制度の導入に関するアンケートの結果

開会

1. 高階会長が懇談会の開会を宣言し、開会した。
2. 本日の懇談会の主なテーマが、次の2点であることを会長発言により確認した。

前回のテーマ「文化芸術振興の取組みの方向性」下記5つのテーマ

- ・ 新宿からの文化を創造する・発信する
- ・ 新宿のまちに人を惹きつける
- ・ 民(みんな)の力で作られたまちを守る
- ・ 新宿力のふたを開ける(顕在化する)
- ・ 多様な人と人をつなげる

について、懇談会としてのまとめの確認。

今回のテーマ「これまでの議論を踏まえての、新宿文化センターのあり方について」について。区内の拠点施設であった新宿文化センターについて、過去6回の議論を踏まえて、どのように活用していくべきかを検討する。また、新宿区文化芸術の振興に関する懇談会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、新宿文化センターの佐野館長が出席し意見を述べることを確認した。

議事

1. 第6回会議内容の確認等について(資料1より)
 - (1) 資料1により、前回の議事概要について、事務局から説明を行った。発言内容について、訂正のある場合は7月15日(水)までに事務局へ連絡することを確認した。区ホームページで公表する書式としては資料1の要旨版を用いることを確認した。

- (2) 高階会長の下命を受け、6月18日(木)に専門部会を開催した。第6回懇談会における会長、各委員の発言内容を整理確認し、条例作成に向け、懇談会の検討課題等を踏まえた意見交換・論点整理を行った。

2. 文化芸術振興の取組みの方向性について(資料2-1、2-2より)

(1) 説明・報告

「文化芸術振興の取組みの方向性」について、前回議論した5つのテーマについて、まとめを確認し、懇談会としての認識を共有し、まとめたい。

資料2-1、2-2により、説明を行った。

垣内専門部会長から次の4点についての補足説明が行われた。

ア さまざまな視点からの意見を5つのテーマ(「新宿からの文化を創造する・発信する」「新宿のまちに人を惹きつける」「民の力で作られたまちを支える」「新宿力のふたをあける(顕在化する)」「多様な人と人をつなげる」)に沿って専門部会でまとめた。

イ これまでの懇談会資料を基本に置き、区内の文化芸術活動を取り巻く現状や課題を確認し、「様々な活動の顕在化と互いの想像力を発揮しながらの連携プレー、そしてネットワークの形成」「年代や対象を考慮した手軽で便利な情報提供システムの構築」「創造や発表の場の提供」などが議論の中心になっていたと考え、それらを念頭に置いて、まとめるようにした。

ウ 懇談会での検討内容を、最終目標の「報告書案」と「条例素案」の形で、イメージ化した。

エ 本日の資料について。

- ・ 資料の形式については、意見を集約してイメージ化したものであり、確定したものではない。
- ・ 報告書・条例のイメージについては、各回の議論を充分踏まえて、随時、論点補強と加除修正を行っていく。
- ・ 持ち帰って検討していただき、意見があれば次回懇談会でいただきたい。

事務局から、次の2点についての補足説明が行われた。

- ・ 資料2-1については、「文化の発信地として、全国に文化的なものを発信していくことが新宿文化の特色」「平均約350万人/日が利用する新宿駅など、高いディスプレイ効果への期待」「民(みん)の力で育まれた新宿の文化芸術」「潜在的な『新宿力』のふたをあけ、どう広げていくか」「孤独な人、考えの違う人、子どもと大人、未来と過去、それらをつなぐのが文化の役割」など、これまでの議論を踏まえた5本柱を中心に、議論の中から8つのポイントを抜き出した。
- ・ 資料2-2については、前回の議論を落とし込むと同時に、会長発言等をまとめ「5つのテーマは非常に密接なものです。そして中心となるのは、新宿のまちに生き、活動し、集う人々です」「文化を創り、享受し、また新たな文化を創造していく。そのためには、人と人をつなげ、創造力を引き出して行くということが大切です。また、行政でも、民(みん)の力でも、これまで様々な取組みが行われていますが、まとまった力として、どうつなげて、一般の区民の力や、350万人ともいわれる新宿駅の乗降客等、新宿のまちに来る人々に伝えていくかと考えていく必要があります」「そのためには、今まで行ってきたが、知られていなかった様々な主体の活動を顕在化する、はっきりと目に見えるかたちで表現していくということが、とても大切です。また、多くの人と人をつなげていくための情報の発信やネットワークの形成、活動の場づくりを行っていく必要があります。そうしたことを重ねていくことが、新しい活動を創り出し、その連鎖が生まれていくことにつながると思いますが」という点を記載した。

(2) 意見交換・まとめ

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 第6回の議論における重要なポイントがよく整理されている。・ 「新宿からの文化を創造する・発信する」など、第6回で議論した5つのテーマについては、資料2-1、2-2にまとめた内容を持ち帰り、確認していただく。 |
|--|

3. これまでの議論を踏まえての、新宿文化センターのあり方について（資料3より）

（1）説明・報告

垣内専門部会長及び事務局より、本日のテーマである「これまでの議論を踏まえての新宿文化センターのあり方について」取りまとめていく上で、その基礎資料として、「これまでの議論を踏まえての新宿文化センターのあり方について」（資料3）について説明を行った。

資料3について議論のたたき台である旨、次の説明を行った。

ア 文化芸術進行の取り組みの方向性を実現するために文化センターがどうあるべきか、どう活用していかなければいけないかをテーマに、これまでに議論した論点を念頭に置き、活用の仕方について議論していただきたい。

イ 概要（項目）の読み上げ（資料3、参考資料）を行った。資料3では文化センター概況、活用状況について述べた。併せて、登録団体優先制度について概説し、新宿文化センターとそれを取り巻く近隣施設の状況について述べた。文化センター利用状況について、その特色を述べ、利用者の声、インタビューの意見、議会の意見などを合わせて紹介した。

- ・ 文化センターの概況（施設・利用区分・減免制度・登録団体）
- ・ 開館時のコンセプトについて（区民文化団体とクラシック中心という理念）
- ・ 文化センターを取り巻く環境の変化について（周辺に新しいホールが多数開設、区民ホールの設置、区内の民間ホールの相次ぐ閉館）
- ・ 文化センターの活用状況について（稼働率約90%、稼働コマ数約80%、優先予約約40%、登録団体利用約4%、財団利用約20%。クラシック、バレエ・ダンス、演劇・ミュージカルの利用が多い、財団主催事業10回で平均入場者は780人/1802席ほか）
- ・ 文化センターの運営に対する意見・評価等（周辺状況を踏まえた今後の文化センターの方向性をしっかりと打ち出す、財団主催事業を区民の志向に合わせたものとし入場者を増やす、20代・30代への認知度を上げていく、ホールの個性となる分野や利用の多い分野との連携強化、創造の場、発表の場の不足、区民やボランティアとの連携重視）

ウ 議論の中で留意していただきたい点

これからの文化センターの使われ方、方向性を考えるための素材として活用して欲しいとの期待を述べ、「区民」の定義についても文化センター開館時より広がっていることなどから、ホールとしての方向性を充分踏まえ、これまで蓄積された強みをさらに強化する必要があることを述べた。

（2）意見交換（発言のポイント）

・開設30周年を迎える新宿文化センターは、区の文化芸術振興に大きな役割を果たしてきたが、周辺に新しいホールも多数でき、文化センターをめぐる環境は大きく変化している。

・日常生活の中のある特別な時間、非日常的な体験を与えところが文化の素晴しさ。文化の素晴しさが、新しい活力を生み出し、人を元気づける。

・文化がなければ、社会がだんだん形式的なものだけになってしまう。新しい喜びと活力を生み出すため、文化は大変重要。文化センターはそのための拠点となる施設である。

・最近の傾向として、大都市圏や東京23区などで、専門分野を特化したホールが急速に増えている。そういう状況下で、文化センターの役割は問い直されなければいけない時期にきている。

・文化力というのは人々に喜びを与え、活力を与え、信頼感を呼び覚ますもの。芸術や、さらに広くはお祭り等も含めて、やはり優れたものが人々に感動を与え、喜びを与え、力を与える。優れたものを、どうやって人々に提供できるかということも考えていくことが大切。また、パフォーマンスアートだけでなく、知的な活動にも開かれた場としていくことが大事。

・文化センターの当初の理念を踏まえて、どう変えていったら新宿の文化の創造・発信とか、民（みん）の力を発揮するとか、人々を惹きつけるとか、潜在力を顕在化するというような方向性につなげることができるか、そうした視点から議論をしていくことが大切。

- ・施設の個性を発揮した創造・発信を行うと、さまざまな志向の人たちが集まってきて、良い循環が生まれる。目的や方向性を明らかにし、発信力を高めていくことが重要。
- ・あのホールで観てみたい、あのホールでやってみたい、というように思われることが必要。
- ・例えば音楽でも、最近は人々の好みや志向が非常に多様なものとなっている。特定のジャンルだけでは捉えきれない。
- ・登録団体としては、予約や利用に関するシステムや、施設の対応については満足している。
- ・指定管理者の新宿文化・国際交流財団については、利用料金減免や、入場料の上限の引上げなど、登録団体に対するサービスの向上に努めており、評価できる。
- ・ソフト面の充実ということについては、指定管理者が取り組むのか、財団が取り組むのか。
- ・財団では、地域ネットワーク事業などでは、3つの区民ホールも利用して事業展開している(文化センター)
- ・現在の文化センターの事業展開は、方向性がなかなか定まらず、苦慮している。事業の力点を事業企画に置くのか、貸し館に置くのか。事業に関しても、従来のクラシック路線からどう舵を切っていくか(文化センター)
- ・財団統合をひかえ、生涯学習・歴史・スポーツなどの分野の視野に入れ、統合後の新たな事業展開を模索している(文化センター)
- ・鑑賞モニター、友の会、地域との連携など、区民や利用者の参画を促進し、参加協働型の施設運営を行っていききたい(文化センター)
- ・子どもたちの発表の場として、文化センターのような檜舞台に立たせるということも大切。
- ・実演芸術の発表だけでなく、展示室を利用した展示会にも力をいれてはどうか。児童・生徒の作品展などには適していると思うし、家族を含めた観覧者を期待できる。
- ・情報を発信するだけでなく、受信することも重要。その場合、送受信の拠点として文化センターは期待できるのでは。
- ・区で親子をターゲットにしたコンサートを開催したが、高齢者も数多く詰めかけた。子どもとか、親子、高齢者など、家族や年代などを具体的にイメージした事業などをやれば、ホールの特色の一つになるのでは。
- ・文化センターの大小のホール、展示室、会議室などをフルに活用し、いろいろな文化体験が一日でできるようなイベントをやると、人のつながりと、新たな発信ができ、ホールの特色ともなっていくのでは。
- ・現在の文化センターでは、プロのオペラやオーケストラの公演は期待できない。声楽や合唱などホール特性に合った分野に力を入れ、このホールの特徴としていったらどうか。
- ・テレビ局と連携し、ホールを活用してもらってはどうか。
- ・歴史博物館など、区の他の施設の事業にも使ってもらい、他の分野の来場者も取り込んでいってはどうか。
- ・講演会やセミナー、シンポジウムなど、知的活動もやっていってはどうか。
- ・音楽など、芸術のコンシェルジュ(さまざまな世話をする人)のような役割を担えないか。
- ・館内の彫刻や絵画の見せ方とか、ロビーなどの空間の活用方法等、施設の風景を変えるような工夫も必要ではないか。例えば、区内の文化芸術団体に特定の空間の活用を一定期間任せるとか。
- ・まとまった資料で見ると、主催事業は結構良いものを行っている。ただ、それがうまく発信されていない。
- ・主催事業、貸しホール、登録団体など、事業展開の力点をどこに置くか、その割合の問題もある。しかし、従来、はっきりした方向性を持たずにやってきた。ある程度、方向性を持つことが必要なのではないか。
- ・方向性をもった活動をする場合、芸術監督のような芸術上の責任者を置くのかどうか。また、専門スタッフを置くのかどうか。人員配置の問題も重要だ。

- ・著名な芸術家などを芸術監督に据えれば、集客や出演交渉などで知名度を活かしたメリットがある。しかし、設置者や区民との意思の疎通がないとうまくいかない。現在の文化センターには、そういうことを含めているいろいろな戦略を考えていくことが求められているのでは。
- ・専門スタッフに必須の条件は「目利き」の役割ができること。自分で企画するだけでなく、いろいろな分野の利用団体などを捌いたり、つないだりできる人。
- ・財団が統合した時、歴史博物館とかさまざまな施設が入ってくる。そういう財団全体のこととホールの運営とは、ちゃんと分けて議論しなければいけない。文化センター内のことでも、ホールのことと、会議室等も含めた全館的なことと、いろいろなコンセプトがあり得る。
- ・文化センターは中ホールがないため、演劇には使い勝手が悪い。その点は区民ホールが補える。文化センターと区民ホールの一体的な運営が望ましているのでは。
- ・区政モニターのアンケートでは、文化センターの認知度は約70%に対し、利用度は37%に止まっている。知っているも来ない人が多いということ。
- ・主催公演の入場者数が大ホールで平均783名/1802席に止まっており、総じて低調だ。
- ・アクセスの拡大になっているのかどうか。公共施設として重要なこと。現状を理解するため利用状況データの分析は非常に大切なことだ。
- ・全国的な傾向として、貸し公演での入場者は増えているのに対し、自主公演での入場者は減っている。マーケットが成熟し、お客さんは自分が良いと思うものをきちんと選ぶようになってきている。
- ・なぜ、このホールでやるのか。公のホールでやるのか。きちんと説明できる状況をつくる。
- ・財団の統合により、生涯学習系の利用も期待できる。ホールを専門に特化した場合、排除の理論が働くおそれもある。文化センターは特定の分野に捉われないオープンな文化の拠点とする考え方もある。
- ・新宿駅の1日平均約350万人の乗降客数を考えれば、文化センターはもっと可能性がある。新宿という立地であれば、金沢芸術村のように24時間開館ということもあり得るのでは。
- ・開館時間を拡大する場合は、予算やメンテナンスなどの問題もある。
- ・ホールの専門性、方向性というのは、特定の分野ということだけでなく、常に良質なものを提供するというところもある。そのような「目利き」が必要。
- ・文化センターを広く知ってもらうため、全館を使った祭典のようなイベントも必要では。
- ・親子で来て、休んだり、遊んだりできるスペースも必要では。また、レストランもより魅力的なものとするよう工夫しては。

4. まとめ

- (1) 「新宿からの文化を創造する・発信する」「新宿のまちに人を惹きつける」「民(みんな)の力で作られたまちを守る」「新宿力のふたを開ける(顕在化する)」「多様な人と人をつなげる」のまとめについて
このテーマに関するまとめとして、資料で整理した方向性について基本的な了解を得たが、資料を持ち帰って確認してもらうこととした。
- (2) 「これまでの議論を踏まえた新宿文化センターのあり方」について
懇談会資料を基本におきながら、新宿文化センターを取り巻く現状や課題を確認し、「周辺文化施設の新設や閉鎖により文化センターの役割の変化」「主催事業と貸し館の割合、事業内容、登録団体の取り扱いなど、施設の目的や方向性の模索」「実演芸術の上演以外の施設活用」「文化芸術情報の送受信の拠点としての役割」「目利きができる専門スタッフの養成」「利用状況の分析に基づく現状把握と戦略の模索」などを中心に議論を行った。
- (3) 今日の話をもとに専門部会で取りまとめをお願いしたい。

5. 次回日程について

事務局より、下記のとおり日程の確認を行った。

第8回懇談会開催は、7月22日(木)

時間帯は調整中につき、確定次第、各委員に連絡をする。

場所：損保ジャパンビル43階(会議室)

閉会

高階会長の挨拶を以って、16時10分閉会した。